

ひろば

人 探訪



Profile ● 1956年生まれ。大学卒業後、1979年に証券会社に入社し、2006年に退職。2004年に「日本橋めぐりの会」を設立。ロイヤルパークホテルおよび東京洋菓子倶楽部の顧問。

日本橋の文化を伝え

「未来老舗」をプロデュース

日本橋めぐりの会代表 川崎

かわさき

晴喜さん

はるき

りの会」は、この街の魅力を多くのの人に知ってもらい、街を元気にしていく「街づくり」の会で、2004年に設立しました。私はその代表で、老舗を回るツアーの案内役であり、日本橋のプロデューサー役を務めています。

この会を設立したきっかけは？

学生時代に、浮世絵の美しさに魅了されました。特に初代歌川広重の画が好きになり、彼が晩年を過ごした日本橋に本社がある証券会社に就職しました。

あるとき、激務で体調を崩してしまい、営業から厚生担当となりました。そこで何かできないかと考えて、社員の健康増進のためウォーキング教室を企画しましたが、参加者はゼロ。周

囲の意見を聞くと、「おいしいものを味わえて江戸文化にも触りたい」という声がありました。以前からつき合いのある老舗の旦那の協力で、「老舗をめぐるコース」に変えたところ、毎回満員となりました。これが街めぐりツアーの原型です。

浮世絵だけでなく、歌舞伎にものめり込んでいくうちに、江戸の歴史や文化に詳しくなり、気がつくとかえる立場になっていました。また、旦那衆とはビジネス中心の損得の関係ではなく、信用第一のプライベートのつき合いを大切にすることもあり、とてもかわいがってもらいました。

それまでの恩返しをするために「日本橋めぐりの会」を設立し、その後、会社が日本橋から移転することになったのを機に、

「日本橋めぐりの会」はどのような活動をしているのですか。

東京・日本橋には、100年以上続く「伝統老舗」が250軒以上あります。「日本橋めぐ

早期退職することを決め、本格的に活動を始めました。

街づくり活動に必要なものとは何ですか。

訪れる人、住む人、働く人それぞれに主眼を置いています。

訪れる人については、ここ数年で多くの商業施設が整備されたこともあり、日本橋には年間1,000万人以上が来訪していますが、重要なのは、何度も来てくれるリピーターを増やすことです。それにはお客さん自

身に街をめぐってもらうのが一番なので、「老舗サロンツアー」と称して何軒かの老舗をめぐるさまざまなコースを設定しています。どの老舗も一流の技や味

を持つているので、あとは私が老舗とお客さんの橋渡しをしただけ、街を歩いて江戸の文化を紹介したりすることで、記憶に残るようなツアーにしています。

2015年のツアーは645回で、延べ9,171人の参加者があり、そのうちの9割がリピーターでした。

住む人や働く人としては、他の地域の人や外国人にも定着してもらうことを期待していま

す。彼らの声は、私たち地元の人にとって当たり前のことが、

実は奥深くて値打ちのあることだと気づかせてくれるからです。また、日本橋の情報を広く発信してくれる存在でもあります。

「シャッター」や「のれん」も工夫されていますね。

2007年に始めた「シャッターチャンスプロジェクト」は、日本橋を題材とした葛飾北斎や歌川広重などの浮世絵を店のシャッターに描くことで、街のにぎわいと人の回遊性をもたせるようにしたものです。

しかし、シャッターは風雨による損傷がつきもので、維持が容易ではありません。そこで2014年に、「浮世絵のれんプロジェクト」を始めました。これは、浮世絵が描かれたのれんを店の外壁やガラス窓の内側に掲げるものです。最近では窓の内側に飾る店が増えていて、店内

からはのれんが外の光でステンドグラスのように見えて一味違った雰囲気があります。夜は、店の外から同じような効果を味わえます。

川崎さんが目指す日本橋の将来像は？

これまで17枚の「浮世絵のれん」が作られていて、このたび「ひいきのれん」という制度を始めました。これは老舗を応援する「ひいき筋」30人ほどからの寄進によるもので、当会のホームページで寄進者が紹介されます。先日、この制度で第一号ののれんが完成したばかりです。2020年のオリンピックまで、100枚ののれん完成を目指しています。

100年以上続く伝統老舗が残っているのは先人の不屈の努力によるもので、それに恥じぬよう100年先まで続く「未来老舗」を支援することで、残していけたらうれしいですね。



▲(株)有便堂のシャッターは、「名所江戸百景」(初代歌川広重画)から



▲(株)森パールのウインドーでは、菱川師宣画の「見返り美人図」ののれんを掲げ店先を飾る